

第2学年〇組 道徳学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 主題名 親切な心で 低学年2—(2) 思いやり・親切
資料名 「ぐみの木と小とり」 (光村図書)

2 主題設定の理由

○ 本学級の児童は、困っている友達を見かけると、声をかけようとするができる。しかし、困っている人を助けることによって、自分が大変になる時には、進んで手をさしのべることができず、見過ごしてしまう姿も見られる。これは、今まで世話をされるが多かったために、自己中心的になり、困っている人を助けるまでに至っていなかったからだと考える。

そこで、相手の立場を認め理解できるようになるこの時期に、本主題を取り上げ、困っている人に親切にしようとする心情を育てることは意義深いと考える。

○ 本主題は、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」ことを主なねらいとしている。

親切とは、相手の立場に立ち、相手を思いやる心が働くことによって、相手に励ましや援助を行うことである。困っている人に親切にすることで、相手とのよりよい人間関係を築くことができるとともに、自分自身が親切にすることのよさに気付くことができる。しかし、現実には、自己中心的になり、つい自分のことを優先してしまい親切にできないこともある。

そこで、身近な人に広く目を向け、だれに対しても温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めることができるようにすることは大変意義深いと考える。

○ 本資料は、ぐみの木の友達のりすが病気になる、心配で困っているぐみの木を思いやり、りすの家まで、嵐の中ぐみの実を届けに行くという話であり、主人公の小鳥の気持ちを通して、困っている人に親切にすることの大切さに気付き、身近な人を思いやり、親切にしようとする心情を育てる資料である。

本時指導にあたっては、小鳥の気持ちに視点をあて、病気のりすの家まで行こうかと、嵐を見ながらじっと考え悩む小鳥の気持ちに共感させて、ねらいとする価値に迫っていきたい。そのため導入では、親切の意味を考えさせ、本時めあて「困っている人に親切にする心について考えよう」へとつなぐ。展開1では、小鳥の心情に視点をあてて考えさせる。その際、ぐみの木の心配そうな表情に目を向け、親切にしてくれたぐみの木を思いやる小鳥の気持ちに迫らせたい。りすの家に行くうちに小鳥とりすの心が通いあい、次の日、嵐が起り、嵐を見ながらじっと考える小鳥の揺れる気持ちを役割演技を通して考えさせていく。そして、嵐の中りすにぐみの実を届け、ぐみの木にお礼を言われた時の小鳥の表情をさせ、親切にした後の嬉しい気持ちもとらえさせる。展開2では、これまでの生活を振り返り、困っている人に親切にした経験を想起させ話し合うことによって、価値を自覚できるようにする。終末では、教師の困っている人に親切にした話を聞くことによって、価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

困っている人に親切にすることの大切さに気付き、身近な人を思いやり、親切にしようとする心情を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第2学年〇組教室において

- 5 準備 資料「ぐみの木と小とり」、ぐみの木・小鳥・りす(実物大)、道徳ノート、言葉のカード、効果音(嵐)、身近な人の絵

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 「親切」の言葉の意味を確かめ親切な小鳥のお話について考えることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 優しい心 ○ 助ける心 <p style="text-align: center;">_____ めあて _____</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">こまっている人にしんせつにするところについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親切の言葉の意味を理解させるために、子どもに分かりやすい言葉に置き換えて説明し、意味をとらえさせる。
展 開	<p>2 資料「ぐみの木と小鳥」読んで、小鳥の気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>(1) 心配そうな顔をしたぐみの木を見た小鳥の気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ぐみの木さんは、りすさんのことが心配なんだね。 ○ りすさんはどうしているかな。 ○ ぐみの実をもらったお返しに、ぼくが見にいくよ。 <p>(2) やみそうもない嵐を見ながらじっと考えていた小鳥の気持ちを役割演技を通して話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ぐみの木とりす、小鳥の関係をとらえさせるために、挿絵を提示し説明する。 ○ 小鳥の気持ちに共感させるために黒板に挿絵や言葉のカードを提示しながら読む。 ○ 小鳥のぐみの木を思いやる気持ちに迫らせるために、ぐみの木の心配そうな表情に注目させる。 ○ 小鳥とりすの心の通い合いをとらえさせるために、挿絵を動かしながらお話の続きを読む。 ○ 臨場感を出すために嵐の効果音を聞かせ、じっと考えている小鳥に共感させる。
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">やみそうもない嵐を見ながらじっと考えていた小鳥は、どんな気持ちでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 風が強くて怖いな。どうしよう。 ○ こんな嵐の中行っても大丈夫かな。 ○ りすさん大丈夫かな。病気がひどくならないかな。 ○ 昨日はりすさん喜んでくれたな。りすさんの喜ぶ顔が見たいな。 ○ ぐみの木さんの大切な友達を助けたいな。 <p>(3) ぐみの木にお礼を言われた時の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ぐみの木さんが喜んでくれて良かった。お礼まで言ってくれて嬉しいな。 ○ みんなに喜んでもらえて嬉しいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ やみそうもない嵐を見ながらじっと考えていた小鳥の気持ちに迫らせるために、教師がぐみの木になり、役割演技を行い、道徳ノートに書き話し合う。 ○ 自分の考えを確かめさせるために「嵐の中でも行くの」というゆさぶりの言葉やぐみの木に考えが向かない時は「ぐみの木さんはどう思うかな」の問い返しを行う。 ○ 価値の分類をした座席表をもとに机間指導を行い、意図的指名をすることで価値に迫らせる。(怖さ→不安→助けよう) ○ 親切にしたことで、りすもぐみの木も自分自身も嬉しくなったことを表情をさせてとらえさせる。
展 開 2	<p>3 自分の生活を振り返り、困っている人に親切にした経験をふり返り発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小さい子が泣いていたから声をかけてお家まで送ってあげた。 ○ 近所のおじいさんのお手伝いをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の経験を想起させるために、考えられる身近な人の絵を提示した後、道徳ノートに書かせる。
終 末	<p>4 教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 困っている人に親切にした体験談 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の子どもの頃の体験について話し、実践していこうとする意識の継続を図る。